

上級日本語学習者による否定中止形の使用状況
——「YNU 書き言葉コーパス」の調査を通じて——

How Advanced Learners of Japanese Manage
the Use of Negative Non-Finite Forms of Verbs:
Analysis of the 'YNU Corpus'

宮 崎 聡 子
MIYAZAKI, Satoko

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要
第49号 2020年3月 抜刷
Journal of Humanities and Social Sciences
Okayama University Vol.49 2020

上級日本語学習者による否定中止形の使用状況 — 「YNU書き言葉コーパス」の調査を通じて—

宮崎 聡子*

1. はじめに

文中を中止する用言の形には、いわゆる「テ形」と「連用形」がある。動詞の場合、肯定形は「シテ」と「シ」の二形式であるが、否定形は「シナイデ」「シナクテ」「セズニ」「セズ」の四形式がある。

- (1) 携帯電話を { 持たないで / *持たなくて / 持たずに } 家を出た。
(2) 彼女と一週間連絡が { ?取れないで / 取れなくて / 取れず } 心配した。

(1)では「持たなくて」が使えず、(2)では「取れないで」が不自然となり、各形式で使用できる条件が異なっている。また、近年では規範的ではないものの「シナク」といったいわゆる「ナク中止形」(金澤 2008)も存在する。このような複雑な様相を見せる動詞の否定中止形について、日本語学習者はどのように使い分けているのだろうか。本稿では、「YNU書き言葉コーパス」を用い、日本語母語話者と比較しながら、上級日本語学習者による動詞の否定中止形の使用状況について明らかにしたい。

2. 先行研究

日本語教育の現場においても否定中止形については早くから問題点として取り上げられている。まず、北川(1976)は、「日本語教授において頭痛の種になりかねないもの」(p.57)として、ナイデとナクテについてどのように指導すべきか議論している。北川は、主語の異同、動詞が意志動詞か無意志動詞かという観点から分析を行い、学習者への指導の際には、ナイデは動詞のみに接続することと、どういう場合に「なくて」が動詞とともに現れるか、また制限されるかを指導すべきであると主張している。

また、小林(2003)は、ナクテ、ナイデ、ナク、ズニ、ズに関する言語研究の変遷を、伝統的な国語学の流れと、その対論としてある意味的な差異の観点から追究する流れという二つの流れとして捉え、研究史を概観している。そして、北川(1976)の意見に賛同し、学習者にとっては、形態

* 岡山大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程、長崎外国語大学特別任用講師

的な違いや、文型によって指導するほうがわかりやすいと主張している。指導のための具体的な整理として以下の6点を挙げている。

- 1) 名詞文、い形容詞文、な形容詞文、存在文→ナクテ、ナク
- 2) 動詞文→ ナイデ、ナク（テ）、ズ、ズニ。動詞文はナイデを基本とする。
- 3) ナル、スル／サセルにつく場合はナクを使う。例) 煙草を吸わなくなった。
- 4) 条件や、因果に関係する文型ではナクテが好まれる。
- 5) ナイデは補助動詞、やりもらいなどにつく場合以外の接続では、ズニに置き換えられる。
例) 心配しないでください。→×心配せずにください。
心配しないで勉強できた。→心配せずに勉強できた。
- 6) 動詞を並列的に述べる場合は、ズを使い、ナイデ、ナクテ、ズニは使わない。

小林の研究は、現場で教える立場からの疑問点から出発し、先行研究を整理した上で、各形式の使用条件を網羅的に分析し、教育へ還元しようとしている。

学習者作文コーパスを用いた研究としては、庵・宮部（2018）がある。そこでは、意見文・説明文・歴史文（時系列文）の学習者作文コーパス（「JCK コーパス」¹⁾）を用い、学習者による複文の組み立てかたについて調査を行っている。本稿と関わる部分では、複文の意味類型の一つである「並列」の中の、「て」「なく（て）」「ず（に）」が取り上げられている。日本語・韓国語・中国語の母語別の集計結果（表1）によると、「よりフォーマルな文体で使われる「ず（に）」は中国語話者に少なく、よりインフォーマルな文体で使われる「なく（て）」は中国語話者に多い」（p.62）ことが明らかになっている。結論として、フォーマルな場面で使われる形式（「ず（に）」）を使うことが習得上の困難点であると指摘している。

表1 並列節の分布 否定（庵・宮部 2017：表6「並列節の分布」より抜粋）

	なく（て）	ず（に）
日本	51 ↓	35 ↑
韓国	106	24
中国	136 ↑	15 ↓

（↑：有意に多い、↓有意に少ない）

¹⁾ 「JCK 作文コーパス」とは、日本語母語話者、中国人日本語学習者、韓国人日本語学習者がそれぞれ書いた計180本の作文コーパスである。学習者の日本語レベルは、JLPT N1相当以上の力を持つとされており、2000字以上の「説明文」、「意見文」「歴史文」という三つのジャンルの作文を取めている。詳細 <http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/>を参照のこと。

この調査の問題意識は、本稿と重なるものであるが、形式を二つにまとめ、フォーマルな文体で使われるかどうかについてのみに焦点を当てている。よって、個別の形式の特徴については、調査する必要があると考える。

最後に、現代日本語の表現において規範的ではないものの、若者を中心として少しずつ広がりつつある「なく中止形」について記述した金澤 (1997、2008、2013) を紹介する。「なく中止形」とは、「従来は「～(せ)ず、…」という形が規範的であった動詞の否定の連用中止法において、助動詞の部分「ず」から「ない」に置き換えた「～(し)なく、…」という連用中止用法」(金澤 2008: 14) と定義される。具体的には次のような例文があげられている。

- (3) 最初は何の味もしなく、一体これからどうなるのだろう、と少し不安になるが、辛抱強く囓んでいるうちに少しずつバラバラになり、…

(東海林さだお『キャベツの丸かじり』朝日新聞社、1989年)

金澤は、この「なく中止形」は、母語話者ばかりでなく日本語学習者の中でもすでに使用が見られ、学習者のレベルが高くなると、母語話者とかなり似通った使われ方がなされると指摘している。そしてそれは、上級日本語学習者の「隠れた文法性判断能力」の現れであるとし、肯定的に評価している。規範的な形ではないにもかかわらず、母語話者に似た文法性判断能力として評価される点は非常に興味深い。本稿においても「なく中止形」を調査項目として取り上げることとする。

3. 調査

3.1 調査概要

本調査では「YNU 書き言葉コーパス」を用い、日本語学習者の動詞否定中止形の使用状況について、母語話者と比較しながらその特徴を明らかにする。調査対象の「YNU 書き言葉コーパス」は、上級日本語学習者（韓国語母語話者 30 名、中国語母語話者 30 名）と日本人大学生（30 名）による、場面や読み手の異なる 12 の作文タスク 1080 編（90 名×12 タスク）からなるデータである。留学生の日本語レベルは、大学の講義を受けることができ、一般的には上級と称されるレベルである²。またそれぞれの作文について一定の基準に基づき評価を行い、達成できたタスクの数に応じて、留学生を「上位群」「中位群」「下位群」の 3 つのグループに分けている。以上のように、本コーパスは、さまざまなタスクによる作文が質・量ともに整っており、今回の調査にふさわしいと考える。

調査方法としては、コーパスの全作文を対象に動詞の否定の中止形、すなわち「(セ)ズ」「(セ)

² 被調査者の日本語能力試験の結果については、韓国語母語話者は30名中19名が1級（N1を含む）合格、3名が2級（N2を含む）合格、中国語母語話者は、30名中25名が1級合格、3名が2級合格となっている。

ズニ」「(シ) ナイデ」「(シ) ナクテ」「(シ) ナク」の5形式について、文字列検索及びUniDic-1.3.12 (Mecab版)による形態素解析を用い集計を行った。分析は、①関係の意味と各形式の相関、②タスクと各形式の相関、という観点から行う。

3.2 調査結果

3.2.1 概観

まず、動詞の否定中止形の使用回数と使用率について、母語別に概観する。結果は表2のようになった。図1は表2をグラフ化したものである。

表2 母語・形式別使用回数と使用率

	ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク中止	合計
日本語	48 (51%)	16 (17%)	10 (11%)	16 (17%)	3 (3%)	94 (100%)
韓国語	23 (23%)	27 (26%)	12 (12%)	31 (30%)	9 (9%)	102 (100%)
中国語	19 (29%)	12 (18%)	6 (9%)	24 (36%)	5 (8%)	66 (100%)

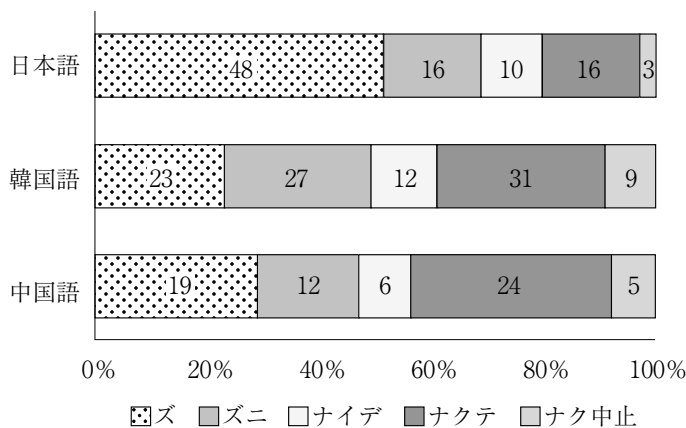


図1 母語・形式別使用回数と使用率

日本語母語話者については、「ズ」の使用が51%と全体の半数を占め、「ズニ」「ナクテ」はいずれも17%で、「ナイデ」は11%となっている。一方、学習者については、最も多いのは「ナクテ」で、韓国語母語話者が30%、中国語母語話者が36%である。「ナクテ」に次ぐ形式として、韓国語母語話者は、「ズニ」「ズ」の順、中国語母語話者は「ズ」「ズニ」の順となっている。また数は少ないが、すべての母語話者に「ナク中止形」の使用が見られた。全体の傾向として、日本語母語話者は「ズ」を積極的に用いているが、学習者はそうではなく、「ナクテ」の使用率が高いことがわかる。

3.2.2 学習者のレベル別の使用状況

ここでは、学習者の習熟度のレベルによる使用状況を見る。「YNU 書き言葉コーパス」では、書き言葉のための独自の評価基準を決め、全作文を評価している。評価項目は、「タスクの達成」「タスクの詳細さ・正確さ」「読み手配慮」「体裁・文体」の四つであり、それにより総合的な評価が行われている。否定中止形の使用は、「文法」が含まれている「タスクの詳細さ・正確さ」、また、その文章のスタイルにふさわしい文体か否かを見る「体裁・文体」といった評価項目と関わってくるであろうが、最終的な評価判定は総合的になされるため、文法や文体は評価を支える一部分であるといえる。学習者のグループ別（上位群・中位群・下位群）に注目すると、結果は表3のようになった。図2は、表3をグラフ化したものである。

表3 グループ（学習者レベル）・形式別使用回数と使用率

	ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク中止	合計
上位群	25 (36%)	16 (23%)	6 (9%)	15 (21%)	8 (11%)	70 (100%)
中位群	16 (32%)	13 (26%)	3 (6%)	16 (32%)	2 (4%)	50 (100%)
下位群	1 (2%)	10 (21%)	9 (19%)	24 (50%)	4 (9%)	48 (100%)

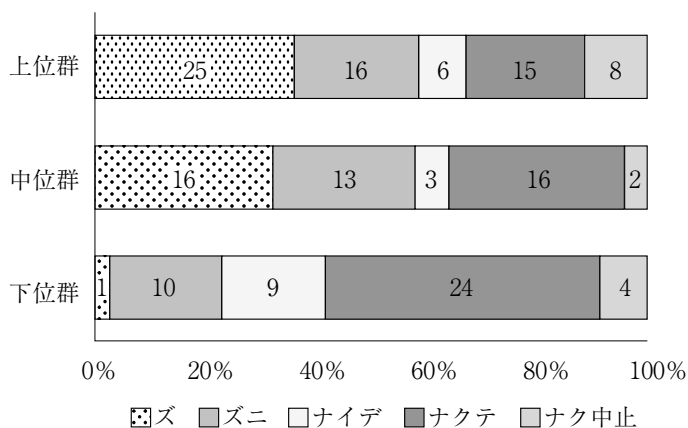


図2 グループ（学習者レベル）・形式別使用回数と使用率

3つのグループを比較して、もっとも違いが顕著なのは「ズ」の使用である。上位群は日本語母語話者同様に「ズ」の使用率が最も高くなっている一方、下位群における「ズ」の使用は1例にとどまり、「ナクテ」の使用が最も多くなっている。「ナク中止形」の使用について注目すると、どのグループにも使用が見られるが、上位群がやや多いことが指摘できる。これは上級学習者の文法性能力が母語話者に似てくるという金澤（2008）の指摘と合致する。

3.2.3 関係の意味と形式との相関について

3.2.3.1 動詞の否定中止形と関係の意味

ここでは、関係の意味による各否定中止形の使用状況について見ていく。「関係の意味」とは、「先行節（の中止形）の語が後続節（の述語）の表す事柄に対して、どのような意味を担っているかを言う」（津留崎 2003b:151）と定義されるものである。具体的には、「副状態」（付帯状況にあたる）、「先行事態」（継起にあたる）、「原因」、「並列」、「前提」などがある。肯定形式とは異なる点として、否定形式の場合、継起関係である「先行事態」の読みがされにくくなるということがある。庵ほか（2000）では、「継起を表す「～て」に対応する否定の形はありません」（p.441）としており、小林（2003）では、「継起は、否定の場合、原因や代替の意味になる。」（p.25）としている。益岡（1997）では「赤上げて、白上げないで、赤下げる」（下線は筆者による）のような例を「継起」として認めているが、これは手順を示す特殊な例である。

また、否定中止形に特徴的な用法として、「対立」「交替」という分類を立てるものもある（小林 2003、市川 2007）。庵ほか（2000）では(5)は「並立」とされ、日高（1995）は(7)「並列」の下位に位置付け「対比構文」と呼んでいる。

- (4) 本人が来ないで、代理人が現れた。（市川 2003「交替・代替」）
- (5) 彼女は高校に行かないでカラオケに行っていたようだ。（小林 2003、庵ほか 2000、「並立」）
- (6) 太郎は合格しないで、次郎は合格した。（庵ほか 2000「並立」）
- (7) この子は親に似ないで、おじいさんに似ている。（日高 1995「対比構文」）

なお、益岡（1997）では(5)のような例には名称は付けず、付帯状況における「意味の拡張」とされている。このように、動詞の否定中止形と関係の意味について、先行研究による用法の捉え方は一致していない。

本稿では、「先行事態」を認め、「対立」「代替」は「副状態」「並列」の中での意味の拡張と捉え、項目は立てず、「副状態」「先行事態」「原因」「並列」の4つを枠組みとして見ていくことにする。これらの関係の意味は相互に明確に分かれるものではなく、連続性が認められる。

以下に、それぞれの関係の意味の特徴と、例文を示す。なお、特に明記のないものは作例であり、コーパス中の実例には文末にタスク番号と学習者情報（母語・グループ）を付す。

【副状態】

いわゆる付帯状況にあたる。主体の主たる状態や動作が後続節の動詞述語で表され、それと同時に存在する主体の副次的な状態を先行節で述べる。同主語であり、先行句節・後行句節ともに意志動詞である。(10)は対比性の意味を帯びる。

- (8) 鍵を掛けずに家を出た。
- (9) ソースをかけないで食べる。/タクシーを使わずにここまで来た。(手段)
- (10) 彼女は学校に行かずにカラオケに行っていた。

「ナイデ」「ズニ」が中心的に用いられる。「ナクテ」は非文となり、「ズ」は一部不自然となる。小林 (2003) は、「付帯状況の場合は、ズは座りが悪い。ズニと言う。」としている。

【先行事態】

先行・後続節において述べられるふたつのできごとが継起関係となる。否定中止形の場合、時の経過を表す状況語や、タラ節、トコロ節など (二重下線部) が示される場合にのみ明確になる。

- (11) 2人はとても深く愛し合っていたので、いつも一緒にいて離れようとせず、やがてしごとをするのをやめてしまいました。 (タスク_12_J027 日本語)
- (12) 授業のレポートにどうしても必要なのですが、図書館には所蔵されておらず、調べたところ先生が研究室にお持ちだとわかりました。 (タスク_01_J027 日本語)

同時性の「ナイデ」「ズニ」では継起性を表しにくく、「ナクテ」「ズ」の場合が中心となる。しかし、動詞肯定形の場合は非常に用例数が多いが、否定中止形の場合は中心的な用法ではない。

【原因】

先行節と後続節が因果関係を持つ。

- (13) 熱が下がらなくて、会社を休んだ。

小林 (2003) では「原因の場合は、ズニは座りが悪い。ズと言う。」とされている。「ナクテ」「ズ」の使用が中心的である。

【並列】

先行節と後続節が意味的に独立し、対等な文である。(15)は対比性を帯びる。(16)は、前後を入れ替えると不自然になるため、「前提」的であるが、このような例も今回は並列として扱う。

- (14) 姉は肉が食べられず、私は魚が食べられない。

- (15) 親が来ないで子どもが来た。
- (16) ただし、普通ののり巻きとちがうのは食べやすい大きさに切り分けられておらず1本ののりまきを手で持って食べる点です。 (タスク_09_J013 日本語)

3.2.3.2 関係の意味別の使用状況

ここでは、まず「ナイデ」「ナクテ」「ズニ」の使用状況を関係の意味との関連を観察する。「ズ」については、鈴木(1976)で指摘されるように、切れ方が大きく、ゆるやかに下の語句と結びつくため、関係の意味があいまいになる。よって、表には含めず、本項の最後に記述する。また、「ナク中止形」は、3.2.4にて詳細を述べることとする。

関係の意味別に集計した結果は、表4のようなになる。太枠は、その形式が使用できない、あるいは使用制限があるとされている部分を示している。

表4 関係の意味別の使用状況

	日本語			韓国語			中国語		
	ナイデ	ナクテ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ズニ
副状態	10	0	14	12	3	23	5	1	10
先行事態	0	3	0	0	1	0	0	0	0
原因	0	10	2	0	20	2	1	19	1
並列	0	0	0	0	3	0	0	0	0
分類不可	0	0	0	0	4	2	0	4	1
合計	10	16	16	12	31	27	6	24	12

関係の意味ごとに使用の傾向を見ていく。まず、「副状態」については、日本語母語話者、学習者ともに「ナイデ」と「ズニ」の使用が中心であり、比較すると「ズニ」の方が多くなっており、似た傾向を示している。使用が制限される「ナクテ」については、学習者にのみ使用が見られ、不自然な用例となっていた。

- (17) [?]仕事もしなくてずっと泣きました。 (タスク 12_12_K040 韓国語中位群)
- (18) [?] 牛郎も牛の面倒を見なくて、毎日織女と会うばかりです。 (タスク_12_C010 中国語下位群)

これらの用例について、許容度には個人差があるかもしれないが、日本語母語話者にはこのような場合「ナクテ」の使用は見られず、「ナイデ」「ズニ」が用いられていた。

- (19) 日本語3人はとても仲良くなり、仕事をしないで、毎日、遊んでばかりいました。

(タスク _12_J029 日本語)

- (20) そして、ふたりはそれ以降、全く仕事をせずに、遊んでばかりでした。

(タスク _12_J003 日本語)

このような用例は、タスク12の「昔話」で多く現れ、「仕事をしないこと」と「遊ぶこと」を対比した事態が並べられていた。「七夕」の物語の中でストーリー上、外すことのできない文であり、多くの被調査者が用いたと考えられる。

次に、「先行事態」については用例数は少なく、日本語母語話者に3例、韓国語母語話者に1例見られた。これらは、起因的継起とも考えられ「原因」との中間的な位置にあるものだと考えられる。

- (21) なんか鈴木先輩、会社の人たちにお酒すすめられて断れなくて、めっちゃ飲んでたら、カラオケで倒れちゃって救急車で運ばれたんだって。(タスク _08_J007 日本語 再掲)

- (22) しかし、図書館にはその本が置かれてなくて、調べてみたら先生の研究室にその本があることが分かりました。(タスク _01_K025 韓国語下位群)

「原因」については、日本語母語話者も学習者も、「ナクテ」の使用が中心となっており、似た傾向が見られた。使用に制限のある「ズニ」「ナイト」は、以下のような用例が見られた。

- (23) あの人あまりお酒強くないのに、上司からだったから断ること出来ずに飲んじゃったみたい。(タスク _8_J024 日本語)

- (24) *神さまたちは新しい服をもらえないで、今の服もぼろぼろになった。

(タスク _12_C010 中国語下位群)

- (25) [?]また、小学生は物事を理解する力がまだ足りずに、理解力が更に深まる中学生の時期から、英語を勉強するのがより効果的だと思います。(タスク _10_C033 中国語上位群)

(23)は、日本語母語話者の用例である。「出来る」が運動動詞ではないため、許容される文となっている。(24)は「もらえないで」とすべき文である。(25)は、「理解する力が足りないこと」は「中学から英語を勉強するのが効果的」と考える根拠にあたるため、中止形ではなく「足りないため」など理由・根拠を明示できる形式が適する。また、学習者には、不自然な「ナクテ」の用例が見られた。

- (26) 先生のご好みがどうかちょっとわからなくて、まず代表的なところについて話します。
(タスク_07_K032 韓国語下位群)
- (27) 産婦人科と再活治療科など特定の人しか行かなくて少し遠くにあってもよさそうに考える人がいるかも知れない。だがそれはとんでもないことである。
(タスク_06_K038 韓国語中位群)
- (28) 最近、不況が多岐に渡り、その同じ悪影響で私達の住域の病院が経済的うまくまわらなくてこの地域には1つしかない総合病院をやめることは、今、地域政府の態度からのぞけるだろう。
(タスク_06_C045 中国語下位群)

「ナクテ」が前後の事態の因果関係を表す条件は、後件が無意志性の場合に限られる。上の例は、いずれも主節が意志や推量になっている。このような場合、前件は判断の根拠となるが、中止形にはそれを明確に表す機能はないため、不自然になっている。「～ため」や「～ので」など、他の理由表現に変える必要がある。

「並列」については、「ズ」が中心的に用いられるため、表4においては韓国語母語話者の「ナクテ」3例のみであった。

分類が困難であった「分類不可」の用例は、次のようなものであった。

- (29) 私は英語の学習に興味や楽しさを感じずにだんだん英語が嫌いになりました。
(タスク_10_C003 中国語中位群)

(29)は、「ずに」を用いているが、少し座りの悪さを感じさせる。「だんだん」という時間の経過を意味する状況語があるため、副状態の「ズニ」より、「ズ」に置き換えたほうがより自然になるのではないだろうか。

最後に、表に含めなかった「ズ」の使用例を挙げる。

「並列」

- (30) 2人は悲しみに明け暮れ、おりひめははたを織ろうとせず、ひこほしも牛の世話をしようとしません。
(タスク_12_J021 日本語)
- (31) 今回の会議でそのことについて議論し、調べたところ、本大学の留学生の4割が現在奨学金を受給しておらず、今まで一回の奨学金を受給したことのない留学生も2割ほどいました。
(タスク_04_K010 韓国語上位群)
- (32) 去年、僕も就職うまくできず、卒論にもなかなか進まなかった。
(タスク_05_C005 中国語中位群)

- (33) ただし、普通ののり巻きとちがうのは食べやすい大きさに切り分けられておらず、1本ののりまきを手で持って食べる点です。 (タスク_09_J013 日本語 再掲)

「原因」

- (34) また、もし閉鎖された場合、日常的に病院通いをしている市民は新たな医者を見つけなければならず、大きな負担となる。 (タスク_06_J027 日本語)
- (35) 僕の場合はバスケットで腕を折ったんですが、きき手の方だったのでテストの答案も書けず、すごく不安でした。 (タスク_05_K027 韓国語上位群)
- (36) なかなか魯さんの入院している病院に見舞いに行けず、申し訳なく思っています。 (タスク_05_C049 中国語上位群)

「ズ」については、日本語学習者には不自然な用例があまり見られなかった。不自然だったのは次の例である。

- (37) どうしようと思っている時、どこからわからず、数え切れない雀が遠方から飛んできた。 (タスク_12_C0054 中国中位群)
- (38) 生活のためにアルバイト三つや四つをせず、勉強に集中させることができます。 (タスク_04_C040 中国語中位群)

(37)は、「どこからか」「どこからともなく」ということを言い表したいものだと考えられるため、文法というより語彙的な誤用であると考えられる。(38)は「せず」がやや不自然に感じられる。奨学金を求める文脈での文であるが、「アルバイトをしないで」や「アルバイトをすることなく」にしたほうがよいだろう。

3.2.4 タスクの種類と形式との相関について

ここでは、「YNU 書き言葉コーパス」の作文の種類をもとに、読み手が特定されているかどうか、また特定されている場合、目上に対するものか(特定・疎)、友人に対するものか(特定・親)について、使用される形式がどのようなになるのを見る。

はじめに、12のタスクの内容と読み手についてまとめると、表5のようになる。

表5 タスクの内容と読み手

	内 容	読み手
1	メールで面識のない先生から図書を借りる	特定・疎
4	メールで大学の学長に奨学金増額の必要性を訴える	
7	先生に故郷の観光地や名物についてメールで伝える	
10	先生に対して早期英語教育の是非について意見を述べる	
2	メールで親しい友人から図書を借りる	特定・親
5	入院中の後輩に励ましの手紙を書く	
8	友人に起こったできごとを親しい第三者に報告する	
11	友人に対して早期英語教育の是非について意見を述べる	
3	デジタルカメラの販売台数に関するグラフを説明する	不特定
6	市民病院の閉鎖に対して反対の意見を新聞社に投書する	
9	広報紙で料理の作り方を紹介する	
12	小学生新聞の昔話コーナーで物語（七夕）を紹介する	

タスクごとに各形式を集計すると、表6のようになる。

表6 タスク・形式別・形式別の使用状況

タスク 番号・内容	日本語母話者					韓国語母話者					中国語母話者				
	ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク 中止	ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク 中止	ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク 中止
1 図書 (上)	5	0	0	0	2	1	0	0	0	4	2	0	0	0	0
4 メール (上)	3	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	1	0	0	1
7 観光地 (上)	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0
10 意見 (上)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0
小計	9	0	0	0	2	5	1	0	3	4	8	3	0	0	1
2 図書 (友)	0	0	0	3	0	0	0	0	2	1	0	0	2	1	1
5 メール (友)	10	7	4	6	0	5	10	7	10	0	5	8	4	13	0
8 観光地 (友)	0	1	0	4	0	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0
11 意見 (友)	0	1	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0
小計	10	9	4	14	0	8	14	7	14	1	5	8	4	17	1
3 グラフ 説明	5	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	1
6 新聞 投書	3	1	2	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0
9 料理 紹介	6	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1	0	0	0
12 昔話	18	5	4	0	1	8	9	5	11	1	1	0	2	6	2
小計	32	7	6	1	1	9	12	5	12	3	5	1	2	7	3

表6をもとに、「特定・疎」（タスク1・4・7・10）、「特定・親」（タスク2・5・8・11）、「不特定」（タスク3・6・9・12）に注目して整理する。まず、「特定（疎・親合計）」か「不特定」かの違いによる使用数は、次のようになった。

表7 読み手が「特定」か「不特定」かの違いによる使用数

		ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク中止	合計
日本語	特定	18	9	4	14	2	47
	不特定	32	7	6	1	1	47
韓国語	特定	13	15	7	14	5	54
	不特定	10	12	5	13	4	44
中国語	特定	13	11	4	17	2	47
	不特定	6	1	2	7	3	19

日本語母語話者は、「特定」「不特定」にかかわらず「ズ」の使用がもっとも多い。特に「不特定」における「ズ」の使用数は突出している。表6によると、「昔話」に18例と多く現れていることがわかる。と「ナクテ」に関しては、「不特定」での使用は1例のみで、「特定」での使用が多い。

一方、韓国語学習者は、「特定」と「不特定」で大きな差は見られない。そのような使用差は現れていない。

次に、表8で読み手が「特定（疎）」か「特定（親）」かの違いによる使用数は、次のようになった。

表8 読み手が「特定（疎）」か「特定（親）」かの違いによる使用数

		ズ	ズニ	ナイデ	ナクテ	ナク中止	合計
日本語	特定（疎）	10	0	0	0	2	12
	特定（親）	9	9	4	14	0	36
韓国語	特定（疎）	5	1	0	4	4	14
	特定（親）	8	14	7	14	1	44
中国語	特定（疎）	8	3	0	0	1	12
	特定（親）	5	8	4	7	1	35

表8によると、日本語母語話者は「特定（疎）」において、「ズ」の使用に偏っている。学習者にも、母語話者ほどではないがその傾向が見て取れる。韓国語学習者は、「特定（疎）」に、規範的ではないが「ズ」の代わりに用いられる「なく中止形」の使用が4例現れている。これは、読み手が

目上の人への文章で、改めて書いた際に現れたことが窺える。

「特定（親）」において、日本語母語話者は「特定（疎）」の場合と対照的に、ナク中止形以外の形式すべてに使用が見られ、その中で「ナクテ」の使用数をもっとも多くなっている。そして、学習者についても同様の傾向が見られる。よって、上級日本語学習者は日本語母語話者と同様に親疎関係が使い分けに影響しているといえる。

3.2.5 「なく中止形」の使用状況

「なく中止形」とは、動詞の否定の連用中止法において、助動詞「ず」ではなく、助動詞「ない」を使った「～（し）なく、…」の形をいう（金澤 1997：105）。「なく中止形」に前接する動詞の特徴は、先行する動詞（句）が状態的な意味を表す場合が多いことと、対応する肯定形式を持たず定型的な性格を持つ表現になっていることであるとしている。

本稿では、金澤（2013）で整理された分類をもとに集計することにした³。

- A. 動詞「～する」
- B. 動詞「いる」
- C. 動詞「～できる」
- D. 補助動詞「いる」
- E. 動詞+助動詞「られる」
- Z. A～E以外の動詞（句）（「落ちつかなく」「一面にすぎなく」「足りなく」等）

（金澤 2013：91）

「なく中止形」の使用状況を母語別に見ると表9のようになる。結論から述べると、日本語母語話者はDタイプ（補助動詞「～ている」）のみが現れ、学習者はC～Zにかけて複数の種類が現れた。

³ 金澤（2013）では、「～ていなく」は取り上げられるが、「～てなく」は除かれている。本調査では「～てなく」の出現も観察するため集計に含めた。

表9 「YNU コーパス」に現れた「なく中止形」

前接動詞のタイプ (金澤 2013)	日本語 (全3例)	韓国語 (全9例)	中国語 (全5例)
A. 動詞「～する」			
B. 動詞「いる」			
C. 動詞「～できる」		「できなく」(2)	「できなく」
D. 補助動詞「いる」	「置いていなく」 「おいてなく」 「していなく」	「置いてなく」(3) 「置かれてなく」 「決まってなく」	
E. 動詞+助動詞「られる」			「食べられなく」
Z. A～E以外の動詞(句)		「変わらなく」 「伸びなく」	「進まなく」(2) 「変わらなく」

日本語母語話者の使用例を挙げる。いずれも、「D.補助動詞「いる」」の否定形である。

- (39) 図書館には置いていなく、田中先生の研究室にあるという話を聞きしました。
(タスク_01_J019日本語)
- (40) しかし、「おりひめ」は、自分自身の服や髪、お化粧などは何もしていなく、仕事ばかりしていました。
(タスク_12_J003日本語)
- (41) 図書館を探してみましたが、おいてなく、田中先生の研究室にあるという話を伺いましたので、メールさせて頂きました。
(タスク_01_J007日本語)

次に、学習者の使用例を挙げる。

- (42) そして彼は牛の面倒を見ないから、畑の仕事もできなく、食べ物もどんどんなくなりました。
(タスク_12_K003韓国語中位群)
- (43) しかし、その本は大学の図書館は置いてなく、取り寄せるには1週間以上かかるそうです。
(タスク_01_K039韓国語上位群)
- (44) 神様は服も着れなくて、牛肉を食べられなく、みんな怒ってしまった。
(タスク_12_C008中国語下位群)
- (45) 【(個人名)】は最近論本を書いています、なかなか進まなく、悩んでいます。
(タスク_02_C061中国語中位群)

韓国語母語話者の場合、Dタイプのうち「していなく」の縮約形としての「してなく」も出現したことが日本語母語話者の傾向と似ていた。「していない」の書き言葉的な中止形は、「していず」ではなく「しておらず」にしなければならない。その点が、学習者にとっては難しく、ナク中止形が現れると推察される。今回の調査に限っては、中国語母語話者についてはDタイプは見られ

なかったが、さらにデータを集めて観察する必要がある。

学習者による「なく中止形」の使用は、初級には現れないが、上級になり書き言葉の文体に慣れるにしたがって、母語話者と同様に無意識に現れてくる形式だと言える。よって、レポートや論文執筆の指導の際には、注意を促すことが必要であろう。

4. まとめと今後の課題

本稿では、上級日本語学習者の動詞否定中止形の使用状況について、「YNU 書き言葉コーパス」を対象とし、関係的意味及びタスクの観点から分析を行った。その結果、全体としては、日本語母語話者は「ズ」の使用率が突出して高く、学習者は「ナクテ」の使用率が高いことがわかった。どのような関係的意味で使用しているかについて、日本語母語話者と学習者の使用率に大きな違いはなかったが、学習者には形式を混同した不自然な用例が観察された。

タスクによる使い分けについては、読み手が「特定」か「不特定」か、に関して、日本語母語話者は「不特定」において「ズ」の使用数が高かったが、学習者の場合そのような使用差は現れなかった。読み手の親疎関係による各形式の使い分けは、日本語母語話者は非常に明確で、「疎」の場合は「ズ」の使用が突出していた。日本語学習者も、「親」の場合に「ナクテ」が多く用いられており、使い分けの基準があることがわかった。

規範的ではない形式の「ナク中止形」については、日本語母語話者にも学習者にも使用が確認された。特に韓国語学習者の使用が比較的多く、目上の人への改まった文章での使用が確認された。これは文体を意識がするゆえに現れた現象であると言える。

否定形式は、コーパス中の用例数が限られるため、カイ二乗検定などを使った統計的な分析はできなかった。引き続き他コーパスを併用するなどして用例を収集する必要がある。さらに、このような複数ある否定中止形を学習者がどのような意識をもって使い分けしているのか、形式選択の動機を尋ねるアンケートやインタビュー調査を行い、教育にどうか検討したいと考える。

<調査資料>

「YNU 書き言葉コーパス」金澤裕之編 (2014) 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』

<参考文献>

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・宮部真由美 (2018) 「正確で自然な複文の組み立て方」『わかりやすく書ける作文シラバス』, くろしお出版, pp.57-73.
- 市川保子 (2007) 『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

- 市川保子 (2010) 『日本語誤用例辞典』 (2010) スリーエーネットワーク
- 金澤裕之 (1997) 「助動詞「ない」の連用中止用法について」『日本語科学』国立国語研究所, pp.105-113.
- 金澤裕之 (2008) 「なく中止形」『留学生の日本語は未来の日本語』ひつじ書房, pp.14-70.
- 金澤裕之 (2013) 「新聞データ (朝日『聞蔵』) に見る「なく中止形」の動向」『現代日本語の動態研究』おうふう, pp.90-103.
- 金澤裕之 (2017) 「大学生における「なく中止形」—アンケートによる 20 年間の動向—」『横浜国大言語研究』35, pp.172-179.
- 北川千里 (1976) 「「なくて」と「ないで」」『日本語教育』29号, pp57-67.
- 小林典子 (2003) 「「なく(て)」と「ないで」「ず(に)」」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第18号, pp.17-31.
- 佐治圭三 (1982) 「「しなくて」と「しないで」と「せずに」」『日本語教育事典』大修館書店, pp.443-444.
- 津留崎由紀子 (2003a) 「形容詞の中止形を用いた複文における先行句節と後続句節の関係」『日本語科学』13, 国書刊行会, pp.7-32.
- 津留崎由紀子 (2003b) 「日本語教育における中止形の指導と日本語研究」『国文学解釈と鑑賞』68 (7), 至文堂, pp.41-61.
- 日高水穂 (1995) 「ナイデとナクテとズニーテ形の用法を持つ動詞の否定形式—」『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』くろしお出版, pp.471-480.
- 益岡隆志 (1997) 「並列節におけるナクテとナイデ」『複文』くろしお出版, pp.67-75.